

【エントリー情報】

自治体名：北海道旭川市

学校名（自治体でエントリーされる場合は記載不要です）：旭川市立末広北小学校

ご記入者：長田 夢

【設問】

1 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。

（1,500文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。

本校の学校教育目標は「夢に向かって輝く子」です。自分の夢や将来、これから行うことに対し、目標をしっかりともち、ひとみをきらきら輝かせて取り組み、自己実現を図る児童の育成を行っています。

本校では、**校内研究の核を「学習用端末の活用」とし**、教職員のICT活用能力の向上を目指しています。校内研究では、学校教育目標の実現に向けて、「**進んで考えを伝え合い 学び合う子の育成**」を研究主題として、教職員が一丸となって日々、授業研究を行っています。

研究主題

進んで考えを伝え合い 学び合う子の育成

主題設定の理由

①学校教育目標の具体化から

学校教育目標「夢に向かって輝く子」その姿の実現のため、児童が自ら学び、児童同士の関わりの中でいきいきと成長していくことが大切であると考え、このことから、授業に個別最適な学びと協働的な学習の視点や一人一台端末の活用を取り入れた授業実践に取り組むことが、学校教育目標を具現化することにつながると思える。

②これまでの研修成果および課題から

本校では、ICTを活用した授業実践に取り組んでいる。一人一台端末を活用した授業づくりを中心に昨年度は各グループ（研修部を中心とした縦割りグループ）ごとに取り組んだ。しかし、単元のねらいと意義、系統性や教科横断的視点を意識した授業づくりまでに全グループが取り組むことができなかった。

そこで本年度は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を結びつけるために一人一台端末を効果的に活用し、さらに各教科の見方・考え方を働かせた授業実践を行うことにより、その有効性について検証することにした。



さらに、各種保護者アンケートや連絡ツールもオンライン化を進め、学校・児童・保護者・地域が一体となって、学校運営を行っています。GIGA スクール構想がスタートし、一人一台端末を活用した学びがスタンダードとなった今、授業は「学習者主体の教育」にシフトチェンジされました。児童の資質・能力の育成を実現するためには一人一台端末の活用は必要不可欠です。「学びの深化」と「学びの転換」のために効果的に一人一台端末を活用することが重要となっています。

そこで本校では、GIGA スクール構想が開始された 2021 年から、「**学習者主体の教育**」を土台とし、「**デジタルシティズンシップ教育**」の視点を取り入れた教育活動を行っています。

ミライシードを活用した現在の取り組みを進めるにあたって、大きな契機となったのが GIGA スクール構

想のスタートと、コロナ禍による学校閉鎖の経験です。一人一台端末の活用も、当初は学校閉鎖期間と同時並行で進めてきました。学校に届いた全校児童分の端末を目にして「どのように使っていけばよいのだろう…」と、多くの先生方が期待と不安をもちながら、端末の準備を進めていた時を思い出します。さらに相次ぐ学校閉鎖。先の見えない怖さが日に日に増していきました。

しかし、コロナ禍の不安を吹き払ってくれたのは一人一台端末でした。一人一台端末として児童・先生方の手に渡った iPad は、まさしく「救世主」となったのです。

オンライン授業による児童の笑顔との再開。止まっていた学びが動き出していく嬉しさ。児童も教師も、一人一台端末によって再び前を向いて歩み出した瞬間でした。

学校が通常に戻り、手探りの中ではありますが、端末を活用したハイブリッドな授業が徐々に形になっていきましたが、新たな問題も生まれ始めました。それはオンライン上での児童とのやりとりの中での些細な言葉遣いの違和感や、対面ではないからこそ思いを伝えることの難しさでした。そこで当時、児童会を担当していた私は、児童会本部の児童を中心にデジタルシティズンシップ教育の一歩として、さまざまな取り組みにチャレンジしました。昨年度からは、学校全体の教育の情報化を進めるセクションに配属され、情報担当として、授業や校務での ICT 活用を校内で進めております。

今回のエントリーシートでは、本校が取り組んできたデジタルシティズンシップ教育としての「北っ子ベーシック iPad バージョン」「北っ子ノートコンテスト」をご紹介します。さらに、全校で挑戦した取り組みと相乗効果で児童の学びに影響があったオクリンクを活用したデジタルノートづくりについても触れ、本校が今、まさに力を入れている「学習者主体の教育」についてお伝えできればと思います。

2 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦勞を教えてください。（1,500 文字以内）

(1)学校全体での取り組み

①「北っ子ベーシック iPad バージョン」

本校では、児童が安心して学習に取り組み学びを深めることができるように「北っ子ベーシック」という学習規律があります。

末広北小学校 学習のきまり

北っ子ベーシック

きをつけよう (姿勢 礼 健康)

①始まりと終わりのあいさつは、**良い姿勢と高背後礼**(言葉を言ってから、おじぎをします。いっしょにしません。)

②学習中の姿勢は、**グーベタピン**

③**時間(タイム)**を守りましょう。

正しい姿勢
正しい背中とおなかにグーひとつ
足はペタン
背中はピン

おはようございます **礼**

たしかめよう (学習用具の整理 学習内容のふりかえり)

①筆入れの中身を確かめる
②机の上には決められた物を置く
③机の中を整える
④毎回の授業では、ふりかえりを大切にします

※右利きの例(左利きは逆)

鉛筆5本程度
消しゴム
赤ペン(赤鉛筆)
定規
その他 指示された物

きれいに重ねます

こうりゅうしよう (みんなで考える)

①相手を意識して聞く
ホップ □体をむけて
ステップ□しっかり
ジャンプ□反応しながら

話している人の方を向いて
静かに 最後まで 相手の発言を尊重して
適切なリアクション

②相手を意識して話そう
ホップ □はっきりと
ステップ□いていい
ジャンプ□相手を見て

正しい発音で ゆっくり 相手に伝わる大きさで
です・ますをつけて 相手を尊重した言葉遣いで
相手の反応を見ながらアレンジ

③協働学習ツールを使って、考えを共有したり、安全に共同制作したりしよう
(オクリンク Google アプリの共同編集機能)

授業始まりと終わりの挨拶
姿勢
先言後礼

(上記、赤の箇所は、児童の意見をを受けて改訂を行っています。)

これまでの学習規律だけではなく、一人一台端末の活用の視点を取り入れた「北っ子ベーシック iPad バージョン」を児童会中心となって全校児童で考えて作りました。

一人一台端末の活用が進むと同時に、先生方からは、「授業中に iPad ばかり触って本当に大丈夫?」「書き込むときの言葉遣いの指導はどうすればいいの?」「視力が悪くなるから使いたくない!」など、様々な疑問や不安な声が生まれました。

そこで取り入れたのが「デジタルシティズンシップ教育」の考え方です。児童が自分自身で端末のよりよい使い方を考え、教科書や鉛筆など同様に文房具の一つとして大切にしてもらいたいという思いから、児童会発信による「北っ子ベーシック iPad バージョン」を作りました。



アイパッドは こわれないように やさしく つかおう。



1年生もんだい

アイパッドを もって
はしても いい！

○か × か
こたえてね！



2年生もんだい

アイパッドで かってに
ともだちの しゃしんを
とつても いい！

○か × か
こたえてね！



3年生もんだい

休み時間 アイパッドを
つくえの上に出したまま
あそびにいても いい！

○か × か
こたえてね！



続いて 質問その2！
「国語の時間、問題が
おわりました！5分あまりま
した。この時間にiPadでどんな
ことをすると「あなたにとって
効果的な時間」になりますか？

良いところがたくさんあるiPadです！
みんなで使い方に気をつけて
楽しく、気持ちよく使いましょう！

②「北っ子ノートコンテスト」

ノートのきまりについても見直しを図りました。一人一台端末の活用が進み、オクリンクのカードに学習内容をまとめたり、インターネットでの調べ学習でのデータを活用したりと、**デジタルでのノートも紙ノートと同様に重要視していこうという考え方を教職員で共通理解**を図りました。そして、新たに「北っ子ノートのきまり」を今年度の初めに改訂し、学校では**紙とデジタルのどちらの良さも生かしてノートを活用していくことについて保護者の理解を得ながら、児童とともに取り組みを進めてきました。**

学習者視点で「ノートづくり」の重要性を考える

3 学習者自身がノートの必要性を考えます

- 児童会でも、学習用端末のルールに加えて、ノートの取り方や学習用具についても、話し合いの場をもちます。
- 日常的にノート作りに興味をもち、学習意欲を一層喚起するために、「神ノートコンテスト」を実施し、お互いのオリジナルノートを交流します。

4 学習用端末のデータを整理します

- 1・2年生 特に行いません。
- 3・4年生 教科ごとに整理したり、名前の編集を行い、データ整理の素地を育てます。
- 5・6年生
 - ①国語・算数・理科・社会の単元終了後に、不要データ（ノート・カード等）を削除します。
 - ②単元の学習を1つのノートに整理し、マイフォルダへ保存し、テストに備えます。

今年度の後期には「北っ子ノートコンテスト」という、全校児童が楽しく参加できるノートコンテストを児童会の情報委員会の児童を中心として企画し、児童発信で開催しました。コンテストを通して、**児童自身が主体となってノートの意味や意義を問い直す機会となりました。**

「よいノートとは何か」について児童同士が話し合い、その視点ごとに①きれいで賞②神アイデアで賞③わかりやすいで賞、3つのコンテストの部門を決めました。

北っ子ノートコンテスト 2023
 ノートコンテスト開催します！

ルール説明

3つの賞に分けて行います **綺麗で賞のポイント！**

- 1、綺麗で賞
 - ・字が綺麗
- 2、神アイデア賞
 - ・色使いが綺麗
- 3、分かりやすいで賞
 - などなど

神アイデア賞のポイント！

- ・オリジナルの吹き出しやキャラクターなどを使っているなど
- ・わかりやすいで賞
- ・ノートが見やすい
- ・工夫してノートをとっているなど

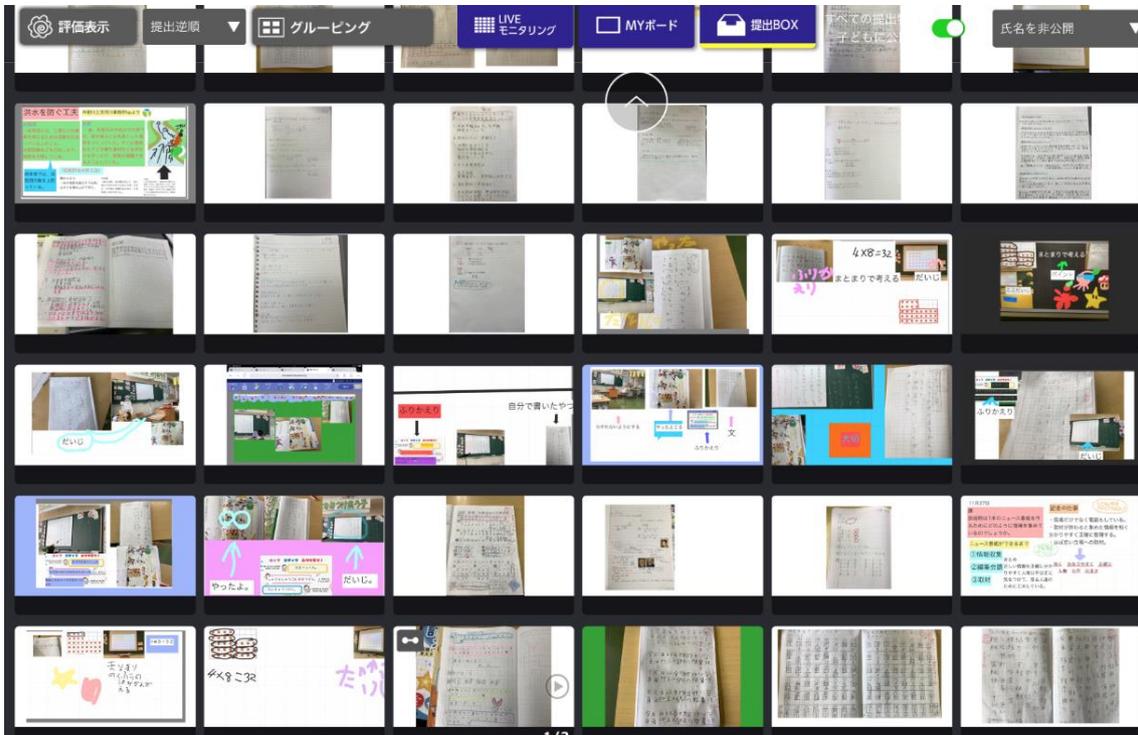
◎提出BOX一覧（受付状態の設定、提出物の内容確認ができます）

受付中 0人 内容を表示 きれいでしよう 編集	受付中 0人 内容を表示 神アイデアしよう（かみあいであ） 編集	受付中 0人 内容を表示 わかりやすいでしよう 編集
-------------------------------------	----------------------------------------------	----------------------------------------

**1～6年生
全員が参加！**

オクリンクの提出ボックスを活用し、全校でデジタルノートの共有と交流を行いました。

デジタルノートづくりに抵抗のある先生方も、1年生から6年生までの児童のノートを見ることにより、児童からたくさんのアイデアをもらうことで、デジタルノートづくりのイメージを膨らませることができたようです。
初めは戸惑いばかりでしたが、児童と一緒にデジタルノートづくりを行うことで、前向きに取り組む先生方が増え、児童と教師ともに端末の活用が急スピードで進みました。



（2）学級でのルールづくり

学校全体でのルールづくりとあわせて、学級での端末の使い方やノートづくりについても定期的話し合

いを行っています。ルールは児童の実態に合わせて変えていかなくては、児童にとって本当に大切なルールにならないからです。

私の学級では、みんなで考えたルールを教室の壁面に掲示しています。いつでも児童は、学級でのルールを確認することができます。教師が規制するのではなく、児童が自分ごととして一人一台端末のよりよい使い方を考えて、安心して学校生活を送ることのできる学級づくりをしています。



(3) 旭川市 ICT 事例集に本校の取り組みを掲載

全校で行った「北っ子ベーシック iPad バージョン」での全校学活の取り組みは、旭川市の ICT 事例集として掲載され、市内の小中学校へ発信しました。デジタルシティズンシップという考え方が広く浸透していないなかでしたので、本校の実践が、他校にとって取り組みを始める際の参考になったという声をいただきました。

3 (3-1) ICT を活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。(2,000文字以内)

(1) 学習者主体という視点の重要性

全校でのデジタルシティズンシップ教育の推進を行うことにより、学校全体で教師主導の指導観というのが大きく変化しました。北っ子ベーシック iPad バージョンや北っ子ノートコンテストは学習者である児童の発信によって行ったものですが、その取り組みは、先生方の授業にも大きな影響を与えました。**教師の一方通行による授業スタイルからの脱却、板書の意味を捉え直し、デジタルの良さを取り入れた児童への提示の仕方、そしてまとめや振り返りのデジタル化。**ルールづくりやノートづくりでは、教師の役割として一貫して共通理解をしたのが、児童の思いを尊重し、児童が主体的に考える時間を大切にして見守り、同じ目線で語り合う、という視点でした。デジタルシティズンシップ教育の大事な視点である「児童との対話」を通して、そして、教師自身も、これまでの「教え込む」授業スタイルではなく、「学びとる」授業へと、すべての先生方が自然とシフトチェンジすることができたのです。

(2) 授業観の転換

教師の授業観の転換により、端末のよさを理解し、自らの学習にいかそうとする児童の姿が増えました。ノートコンテストにより、高学年だけではなく、低学年から端末を活用し、上級生のノートづくりに憧れや進級への期待をもって日々の学習に取り組んでいます。

また、放課後の時間には、オクリンクのデータなど、学年間や他学年で共有を行い、その日の授業について先生方同士で楽しく語り合う時間も増えました。「今日、オクリンクでこんなカード作って見たんだ〜」と、自作した学習カードを学年でシェアしたり、「〇〇さん、今日のノートのまとめ、こんなすごいものを作ってきたから見て〜！」と、児童のデジタルノートを一緒に見たりすることにより、教師側は今日の授業について振り返ることができるなどの**授業改善にもつながりました。**

授業観の転換によって、児童の学ぶ姿だけではなく、私たち教師のデータ活用や ICT スキル、さらには先生方同士の交流の時間が増えることにより、年齢や経験に縛られることなく、**学校全体で授業力のスキルアップ**となりました。

(3) 振り返りの質の向上

デジタルノートがスタンダードとなったため、学習の振り返りもオクリンクのカードを使っています。

私の学級では、「書く力」ではなく「客観的に自分を見つめ直すことができる力」が育成できるよう、3段階での振り返りを行っています。

ホップ ステップ ふりかえり!

学しゅうしたことの中で心にのこったことは?

思ったこと 考えたこと はっぴょうしたことは?

つぎの学しゅうや生活でつかえそうなことは?

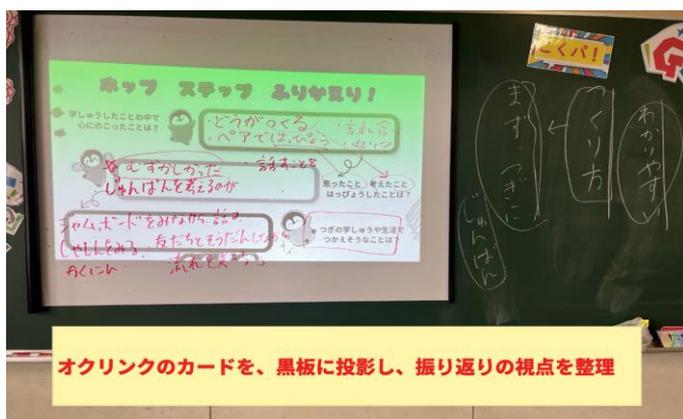
さらに、提出ボックスに送られた全員のカードを、OCR の機能を使ってテキストマイニングで集約をし、個人の振り返りを学級全体の振り返りにつなげています。単元通して身につけたい力に向けて、一人ひとりの振り返りを着実に全体の学びへとつながるように、振り返りの時間を工夫しています。



提出ボックスで全員とシェアする場合には、氏名は非公開、授業の時間内に強制的に提出させるのではなく、提出の期日を決めて行うなどの配慮をすることにより、提出された仲間のノートを参考にして自分のノートをよりよくしようと工夫を行ったり、期日までに何度も提出をしてノートをアップデートしたりする児童が増えました。

振り返りのデジタル化、そしてデジタルノートの取り組みは、児童の振り返りの質の向上という成果が生まれました。





(4) 基礎学力の向上

デジタルノートづくりを通して、学習者主体の授業が各教科の中で増えていきました。教師の説明や一方的な解説はせず、ICT を活用し、オクリンクの機能を使った授業づくりを行うことにより、児童のアウトプットの時間が増えました。

例えば、学習したことをもとにパフォーマンス課題でのポスターづくりや、動画づくりを行っています。単元のまとめとしてパフォーマンス課題を行う際には、オクリンクでこれまでの自分のデジタルノートを振り返り、学んだことを復習しながら、単元のまとめの制作を行うなど、**アウトプットの時間の増加と質の向上により、児童自身が主体的に学習に取り組み、これまでの学習内容の定着も高まりました。**

また、単元テストの際には、オクリンクのカードをまとめた**デジタルノートで効率よく復習**することができます。テストの振り返りもカードで行うことで、単元ごとの振り返りのカードがオクリンク内に蓄積され、学期末には苦手な単元を復習するためのデータにもなります。オクリンクでつくるデジタルノートにより、学期ごとの振り返りもすぐにできるようになりました。

つまり、**デジタルノートは、年間通して児童の基礎学力の定着と向上につながっていることが、最大の成果となりました。**

(3-2)ICT 活用による成果について、定量的なデータでお示し可能なデータがあれば、教えてください。(1,500 文字以内文字以内) ※本設問のみ任意回答

学校評価 「三輝」向上プランの取組

1 本校の教育目標及び年度の重点教育目標

本校の教育目標	夢に向かって輝く子 あきらか (知) きよらか (徳) すこやか (体) (意)
年度の重点教育目標	学び合い 協力し合い 高め合う 北っ子の育成 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px; text-align: center;">三輝</div> <div> <p>「あきらか」の笑顔が輝く …… 進んで考えを伝え合い 学び合う子</p> <p>「きよらか」な笑顔が輝く …… 人の気持ちに寄り添い 協力し合う子</p> <p>「すこやか」な笑顔が輝く …… 粘り強く取り組み 高め合う子</p> </div> </div>

2 「三輝」向上プランにかかる実践の評価

*評価指標の目標値は4段階評価における肯定的な回答 (A と B の合計) の割合

「あきらか」【知】の自己評価

【全校共通指導の項目】 1 学習指導 2 総合的な学習の時間 3 国際理解教育 4 情報教育 5 研修活動

指標	評価指標	結果 (%)			
		A	B	C	D
取組	1 学習指導 考えを「書く」「説明する」などの言語活動における児童の学習状況を適切に捉え、認め励ます取組を継続して行った。	5 0	4 4	6	0
取組	2 総合的な学習の時間 身に付けさせたい資質・能力の育成を目指し、「課題の設定」「情報の収集」「情報の整理・分析」「まとめ・表現」の学習過程を工夫した。	1 7	7 8	0	5
取組	3 外国語活動・外国語 ゴール(目指す具体的な姿)を明確に位置づけ、学習過程を工夫した。	3 9	4 4	1 1	6
取組	4 情報教育 ICT の適切な活用を位置づけた各教科等の指導計画の作成と実践が進んだ。	4 4	5 0	6	0
取組	5 研修活動 授業交流に基づく子どもの学びの充実を中心に据えた校内研修により、授業改善が進んだ。	4 4	5 0	0	0
【意見】 ・外国語は目指す姿よりも活動の達成を重視してしまっていました。 ・書く、説明する指導を丁寧に行うことができなかった。 ・総合的な学習と外国語については、低学年なので、高学年で学習する前段階として教科のゴールをイメージして、生活科等での学習を行いました。					
【改善策】 ・「総合的な学習の時間」では、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童一人一人の課題に対して解決できるよう情報の整理・分析から、まとめ・表現活動の工夫を図る。 ・「外国語活動・外国語」では、単元の目標から児童に目指す姿を提示し、活動のねらいを明確にしながら活動を行うよう意識する。					

学校評価の結果 (令和5年12月に集計) において、「情報教育」の項目では全教職員の肯定的な回答が (A と B の合計) 94%であった。各教科などでの ICT 活用の成果が見られた。

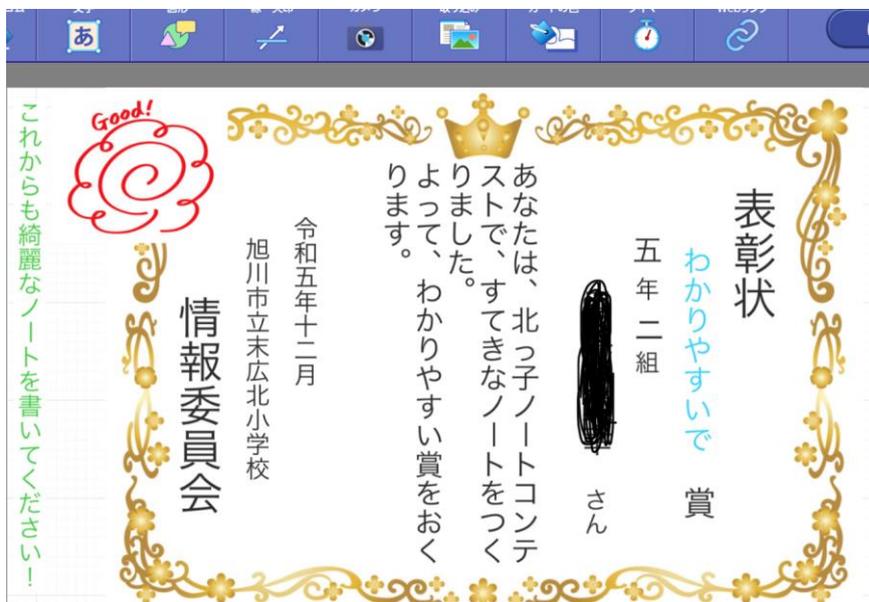
4 お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立つ場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。

※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1つのエピソードに絞る必要はございません。(2,000文字以内)

(1) 全学年・児童会活動「北っ子ノートコンテスト」

北っ子ノートコンテストでは、情報委員会の児童によってそれぞれの賞の受賞者を決めました。オクリンクで表彰状を作成し、情報委員会の委員長によって、表彰式を行いました。

その様子を全校に発信し、児童にとっては、「また来年頑張ろう!」「もっとよいノートを作りたい!」「高学年のノートってすごい!」など、**ノートコンテストが、たくさんの児童にとって学習意欲や、それまで以上にオクリンクのカードの機能や端末の機能の活用の向上につながるとても良い機会となりました。**



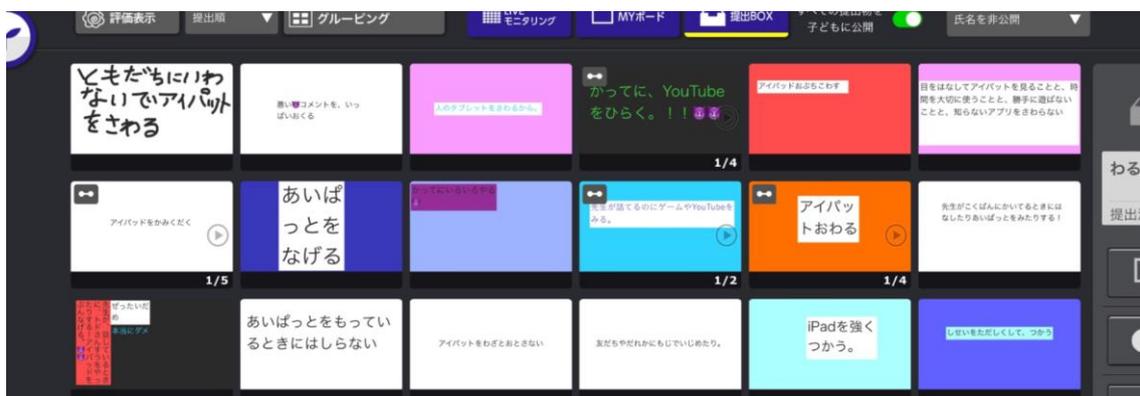
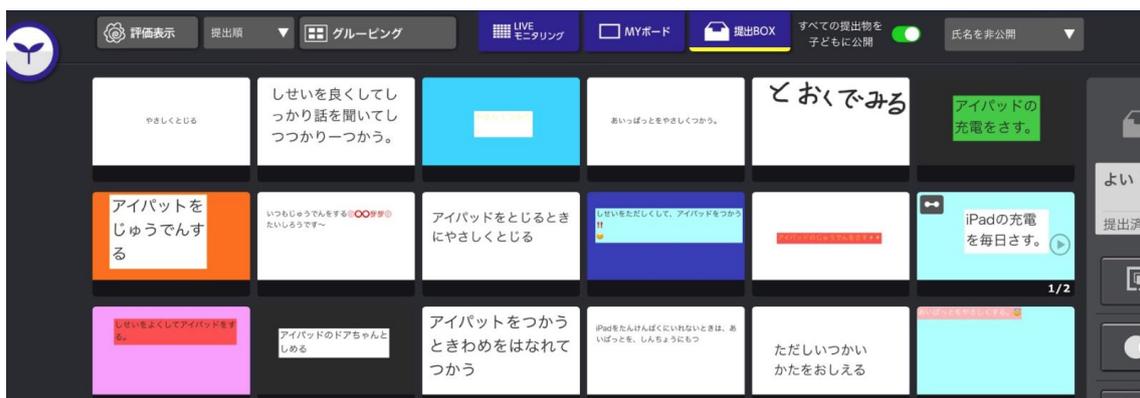
(2) 全学年・学級活動「iPad のよりよい使い方を考えよう！」

オクリンクの提出ボックスを活用し、一人一台端末のよりよい使い方について自分なりの考えをカードに記入しました。

①よい使い方 ②悪い使い方 ③友達が悪い使い方をしていたところを見たら、あなたならどうする?

上記のように、教師は質問をカードにして児童に送り、児童は自分の考えをカードにまとめて提出しました。

提出ボックスの回答を共有し、いつでも児童がよりよい使い方について考えることができました。学期ごとなど、定期的に学活の時間に振り返る際にも、提出ボックスのデータがあるので、前回と比較して、**学級でのルールもアップデート**することができました。



(3) 2年生・道徳「いじめ見逃しゼロ！」

ルールだけではなく、道徳ではいじめ(ネットいじめも含む)について考える授業でもオクリンクを活用しました。「いじめを見逃さないために、自分ができること！」をカードに書き、提出します。これは氏名を出さずに共有し、仲間の意見を見ながら、自分の考え以外にも「これだったら自分もできそう！」「やってみよう！」という**他者の意見も取り入れて、自分でアクションを起こすことのできる気持ちを育む**ことのできる機会となりました。



(4) 2年生・各教科「振り返り」

3段階の振り返りを行い、学級全体で共有しています。オクリクの「検索」の機能を使うと、教師は児童それぞれの振り返りを時系列に沿って整理ができるため、児童の成長を評価することができます。



(5) 2年生・各教科「まとめ」

デジタルノートのよさを生かし、オクリクのカードで授業のまとめを行っています。板書の写真や友達の見聞をカードにまとめたり、今日の学びを自分なりの言葉にしまとめたり、児童は紙のノートも活用しつつ、充実したオクリクのカードの機能を使いながら、ノートづくりをしています。

まとまりを、作って、計算を、する

しき
 $8 \times 4 = 32$

ふりかえり

ポイント

ホップ ステップ ふりかえり!

● 学しゅうしたことの中で、心のこったことは?

文を作った。

● 思ったこと 考えたこと はっぴょうしたことは?

数をつかうのが楽しかった。

● こんどから最後にマルを使うのに気をつけてやる。

つぎの学しゅうや生活で つかえそうなことは?

だいじ